
所 属 : 平和研究所

職・氏名 : 所 長・特任教授 吉川 元

研究キーワード : 平和研究、安全保障論、国際関係論

■研究テーマ

① テーマ : 国際安全保障共同体の研究

② テーマ : 戦争と平和の国際関係史の研究

■研究テーマの応用例

平和論の変容、平和、援助、友好関係が実際には人民の殺戮にどのように影響したか、という平和の再定義について研究しております。

■主な著書、発表論文

1. 『ソ連反体制運動の展開—ソ連人権問題の国際化』、広島修道大学総合研究所、1983年。119頁。
2. 『ソ連ブロックの崩壊—国際主義、民族主義、そして人権』、有信堂高文社、1992年。259頁。
3. 『ヨーロッパ安全保障協力会議 CSCE—人権の国際化から民主化支援の発展過程の考察』、三嶺書房、1994年。465頁。
4. 『国際安全保障論—戦争と平和、そして人間の安全保障の軌跡』有斐閣、2007年。335頁。
5. 『民族自決の果てに—マイノリティをめぐる国際安全保障』有信堂高文社、2009年。223頁。

【編著】

1. 『予防外交』、三嶺書房、2000年。300頁。(編著)。
2. 『マイノリティの国際政治学』、有信堂高文社、2000年。251頁。(吉川元・加藤普章 共編著)。
3. 『なぜ核はなくなるのか—核兵器と国際関係』、法律文化社、2000年。249頁。(山田浩・吉川元 共編著)。
4. 『国際関係論を超えて—トランスナショナル関係論の新次元』山川出版、2003年。258頁。(編著)。
5. 『国際政治の行方』ナカニシヤ出版、2004年。321頁。(吉川元・加藤普章 共編著)。
6. James Llewellyn, David Walton and Gen Kikkawa, *A Pacifist State in a Hostile Region: Japan and Post War Conflict in Southeast*, New York: Nova Science Publishers, 2009, pp.234. (共著)。
7. 『中東の予防外交』信山社、2012年、365頁。(吉川元・中村覚 共編)。同書の第1章「予防外交論」(33-59頁)執筆。
8. 『世界の中のアフリカ—国家建設の歩みと国際社会』上智大学出版会、2013年、181頁。(吉川元・矢澤達宏 共編著)。
9. 『グローバル・ガバナンス論』法律文化社、2014年、314頁。(吉川元、首藤もと子、六鹿茂夫、望月康恵 共編著)。同書の序章「グローバル化とグローバル・ガバナンス」(1-13頁)を執筆。

【共著（分担執筆）】

1. 「ソ連・東欧関係の構造変容—民族共産主義と対抗文化」、馬場伸也編『講座政治学V・国際関係』、三嶺書房、1988年、93-139頁。
2. 「社会主義の平和外交・人権問題」、日本平和学会編『社会主義の理念と平和』、早稲田大学出版会、1989年、152-168頁。
3. 「社会主義と人権・開発・環境問題」、臼井久和、綿貫礼子編『地球環境と安全保障』、有信堂、1993年、138-158頁。
4. 「CSCEと冷戦構造の変容」、細谷千博、丸山直起編『ポスト冷戦期の国際政治』、有信堂、1993年、160-177頁。
5. 「OSCEとNGO」、臼井久和・高瀬幹雄編『民際外交の研究』、三嶺書房、1997年、152-174頁。
6. 「積極的平和」臼井久和・星野昭吉編『平和学』、三嶺書房、1999年、105-132頁。
7. 「人権」、初瀬龍平、定形衛、月村太郎編『国際関係論のパラダイム』有信堂、2001年、140-151頁。
8. 「国際秩序における『主権』概念の変容—国際安全保障と内政干渉の正当性」神戸大学六甲台五部局百周年記念事業検討員会編『神戸発 社会科学のフロンティア』中央経済社、2002年、1-33頁。
9. Kikkawa Gen, “Preventing Ethnic Conflicts—Reconsideration of the Self-Determination Principle,” Sato Hideo, ed., *Containing Conflict: Cases in Preventive Diplomacy*, Tokyo: Japan Center for International Exchange, 2003, pp.21-60.
10. Kikkawa Gen, “Peace and Security,” *Encyclopedia of Life Support Systems*, Eolss Publishers, 2003.
11. 「欧州の予防外交と平和構築—OSCEの予防外交を中心に」磯村早苗・山田康博編『今戦争を問う—平和学の安全保障論』（グローバル時代の平和学 第2巻）、（法律文化社、2004年）、91-122頁。
12. 「冷戦の終結とヨーロッパ市民」田中孝彦・青木人志編『「戦争」のあとに—ヨーロッパの和解と寛容—』2008年、勁草書房、225-246頁。
13. 「国際問題としてのマイノリティ」日本国際政治学会編『日本の国際政治学—国境なき国際政治』第2巻、2009年、有斐閣、135-155頁。
14. 「西歐的国際政治システムへ回帰するアジア」中村雅治・イーブ・シュメイユ共編『EUと東アジアの地域共同体—理論・歴史・展望』上智大学出版、2012年、38-66頁。
15. 「中東の予防外交」吉川元・中村覚 共編『中東の予防外交』信山社、2012年、33-59頁。
16. 序論「正義と国際社会」『国際政治』171号、2013年1月、1-14頁。
17. 「国際平和とは何か」上村雄彦編『グローバル協力論入門』法律文化社、2014年、pp.40-51.
18. 「民族自決主義の功罪」大芝亮編著『ヨーロッパがつくる国際秩序』ミネルヴァ書房、2014年、41-61頁。

■主な特許、芸術作品等

■想定される連携先

地方自治体
公的研究機関
教育機関